

次の100年を、
この国から。

なんどでも昇る朝日のように。
なんどでも蘇る鳳凰のように。
センチュリーは走り出す。
「次の100年をつくる」
という新たな使命を乗せて。
平坦な道ではないだろう。
けれど、
この国にしかない技術は、
この国にしかない美意識は、
人から人へ、静かに確かに、
受け継がれている。
ものづくりの火は、消えてはいない。
日本にしかつくれないものが、きっとある。

この世界にひとつを、この国から。

One of One



C E N T U R Y

